

東北大学史料館 新公開資料速報展（第9回）

2010.7 東北大学史料館

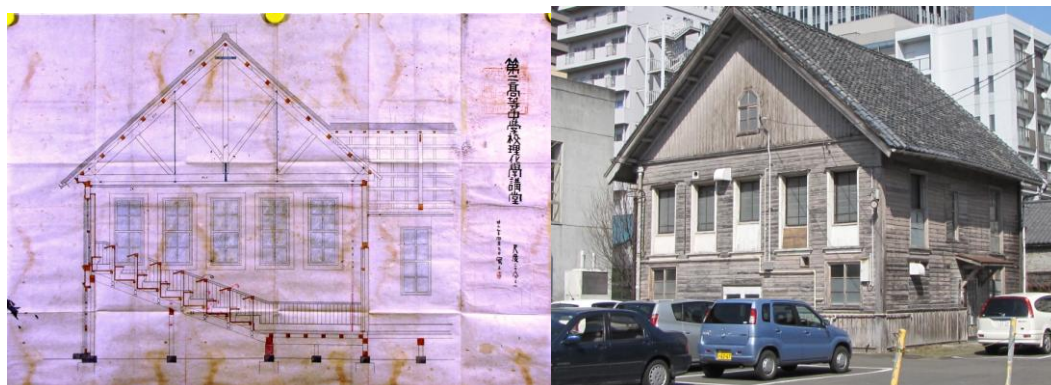
明治学校建築の設計図

—第二高等中学校建築図面—

今回紹介する資料は、東北大学片平キャンパスがはじめて学校キャンパスとして使われた、明治20年代の「第二高等中学校」の建築図面です。2010年に附属図書館から当館に移管されたものです。

校舎の設計にあたったのは、当時文部省の技師であった山口半六（やまぐち・はんろく1858～1900）。山口は文部省留学生としてパリで土木・建築工学を学び、帰国後文部省に入省して技師となった建築家で、一高から五高に至るいわゆるナンバースクールをはじめ当時の官立学校の設計のほとんどにたずさわりました。学校建築で現存する作品としては、第四高等中学校本館（現石川近代文学館：重要文化財）、第五高等中学校本館（現熊本大学五高記念館）などがあります。

第二高等中学校の校舎（片平地区）は、明治20年（1887）の開校時にはまだ存在せず、明治21年から24年にかけて建築されました。本館をはじめ急勾配の屋根を持つ、縦長の窓のついた暗黒色の簡素なデザインでまとめられていますが、他の高等中学校の本館が煉瓦づくりであるのに二高は木造校舎でした。そのほとんどは東北帝国大学時代のキャンパス整備や戦災などで消滅しましたが、唯一、「物理学教室」として使われた講義室が片平キャンパス内に現存しており、明治の片平の雰囲気을伝えています。



「第二高等中学校理化学講堂」設計図(左)と、現存する旧二高物理学教室(右：片平キャンパス内)